

Day1 2月15日(土) 12:30-20:00

基調報告・全体シンポジウム

権利としての 若者協同実践をめざして

自己責任の圧力が強い社会のなかでは、生きづらさを口にすることも難しく、支援を受けることのハードルも上がりがちです。それに対し、本来「あってあたりまえ」の権利として「若者協同実践」を位置づけていくために必要なことは何か、多様な角度から考えます。

基調報告者

古村 伸宏
日本労働者協同組合
(ワーカーズコープ)
連合会
/ JYCフォーラム
代表理事

コーディネーター



塚本 竜也
NPO 法人トチギ環境
未来基地 代表理事
/ 一般社団法人
栃木県若年者支援機構

シンポジスト



両角 達平
文教大学
若者政策研究者



岡部 茜
大谷大学
社会福祉研究者



鈴木 綾
こおりやま
子ども若者ネット

課題別分科会・交流会

- 10代会議** 10代の私たちだからこそできること、語れる未来
- 振り返り** 全体シンポジウムを受けて、みんなで語り合おう
- 権利** 自己責任を越えて若者を社会の担い手にー若者協同実践への道筋ー
- 8050問題** 8050問題を考えるー孤立を防ぐつながりづくりとはー
- 労協法** ないなら、つくろう！協同で働く自分たちの職場（仕事）
- 評価** 同じ舟に乗り、考える！若者の権利に役たつ評価とは？

交流懇親会

一日目終了後には、参加者の皆様で交流することができる懇親会を開催します。
お好きな食べ物や飲み物を手にとっていただけるマルシェや、音楽を通じた交流企画も予定しています。

ご挨拶

悩んで、ゆれて、それでも
ゆっくり歩いていこう

不登校、ひきこもり、いじめ、そしてニート……。当事者となる子どもや若者たちは、身の回りの人間関係や環境だけでなく、様々なことに影響され追い込まれていきます。第15回を迎える「全国若者・ひきこもり協同実践交流会」では、そういった個々に寄り添った視点から社会情勢までを見据えたマクロな視点までを踏まえ、これまで全国で蓄積されてきた支援ノウハウや当事者の声、そして未来を見据えた議論など、子ども・若者の支援に「いま必要とされる全て」を参加者と当事者のみなさんと共有します。「生きづらさ」は、決して当事者だけの問題ではありません。家族・支援者・行政・民間といった枠を超えて、一步一步「当事者とともにみなで悩みながらゆっくり歩んでいく」、そんな会を作っていきませんか。

実行委員長 陣内 雄次

Day2 2月16日(日) 9:30-17:30

実践別分科会

- 余暇・文化** 生きるための余暇文化～「好きなこと」の価値と可能性
- 働く** 働きたい職場ってどうつくる？
- 居場所** 多様な居場所をどうつくり、どう続ける？
- 地域** 若者と地域がともに変化する地域づくりとは？
- 行政** 自治体と民間団体の協同実践～共に“つくる”若者支援とは？～
- 家族** 出口が見えない家族に向けて～繋がるのが明日への一歩
- 多様な学び** 市民による学校づくり～多様な“学び”とは何か～
- 障がい** 障がい者支援制度～使える？使ってる？～
- ピアサポート** 同じ悩みを持つ仲間て手を繋ぎ、今できることを考える
- 住まい** 経験者から見た共同生活
- 性的少数者**
性 セクマイ・フレンドリーな居場所、地方でどう増やす？

若者協同実践とは？

若者を「支援」を受ける客体としてではなく、社会をつくっていく主体として捉え、ともに生きやすい社会をつくりだすために、支援者・研究者・行政・市民・家族・そして若者が対等な関係で織りなす営みを若者協同実践と言います。

お問合せ

現地事務局

一般社団法人栃木県若年者支援機構
〒320-0032 栃木県宇都宮市昭和 2-7-5
Tel 028-678-4745

全国事務局

一般社団法人若者協同実践全国フォーラム
〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院 阿比留久美研究室 気付
Mail info@jycforum.org